

— 古代^{むかし}を知ることは、現在^{いま}を知ること —

島根県、奈良県、三重県、和歌山県、宮崎県は共同で
古代の歴史文化に関する優れた書籍を表彰します。

第2回

古代歴史文化賞

この賞は、最近発行された書籍のうち、
日本の古代世界を学術的基盤に立ちながら
一般読者にとってわかりやすく書かれたものを
対象としています。

■ 大賞一作品、準大賞一作品

※推薦委員による推薦図書の中から、選定委員会にて受賞作が決定されます。

■ 受賞作品の発表および表彰式（平成26年11月頃、東京にて）

■ 表彰記念イベント（平成27年1月頃、東京にて）

第1回受賞作品 （平成25年9月9日発表）

古代歴史文化賞



都出比呂志 著



『古代国家はいつ成立したか』

考古学の立場から、国家の形成過程を解き明かした作品。弥生時代から飛鳥時代の発掘調査成果をもとに、古墳時代に初期国家が成立したことを明快に説く。（岩波書店）

島根県古代文化センター

〒690-8502 島根県松江市殿町1番地
TEL 0852(22)6725 FAX 0852(22)6728

古代歴史文化賞に関する情報は、
島根県文化財課のホームページ
(<http://www.pref.shimane.lg.jp/bunkazai>)
にも掲載しています。

みえ賞



斎藤英喜 著



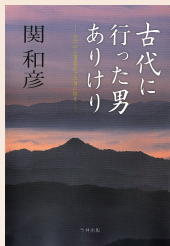
『古事記はいかに
読まれてきたか』

古事記がどのように読まれ、解釈されてきたかを丁寧に探求した作品。本居宣長を起点に、時代をさかのぼりながら記紀研究を追跡し、古事記成立の謎にも迫る。（吉川弘文館）

しまね賞



関和彦 著



『古代に行った
男ありけり』

古代出雲を中心に、古代びとの心象風景を描きだした作品。古代史に加えて民俗学や国語学の視点を交え、神社・遺跡・神話伝承地などを訪ね歩く。（今井出版）

なら賞



近江俊秀 著



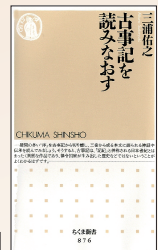
『道が語る
日本古代史』

「道」に関わる技術や制度などを切り口に、最新の発掘・研究成果をふんだんに活用して、古代国家の仕組みや社会の変動を読み解く作品。（朝日新聞出版）

みやざき賞



三浦佑之 著



『古事記を読みなおす』

古事記神話を語り口調でわかりやすく読み解く。「古事記は王権のための歴史書」という説を批判し、古事記成立の背景についてあらたな説を展開する。（筑摩書房）